

不二

一般版

1 / 2022



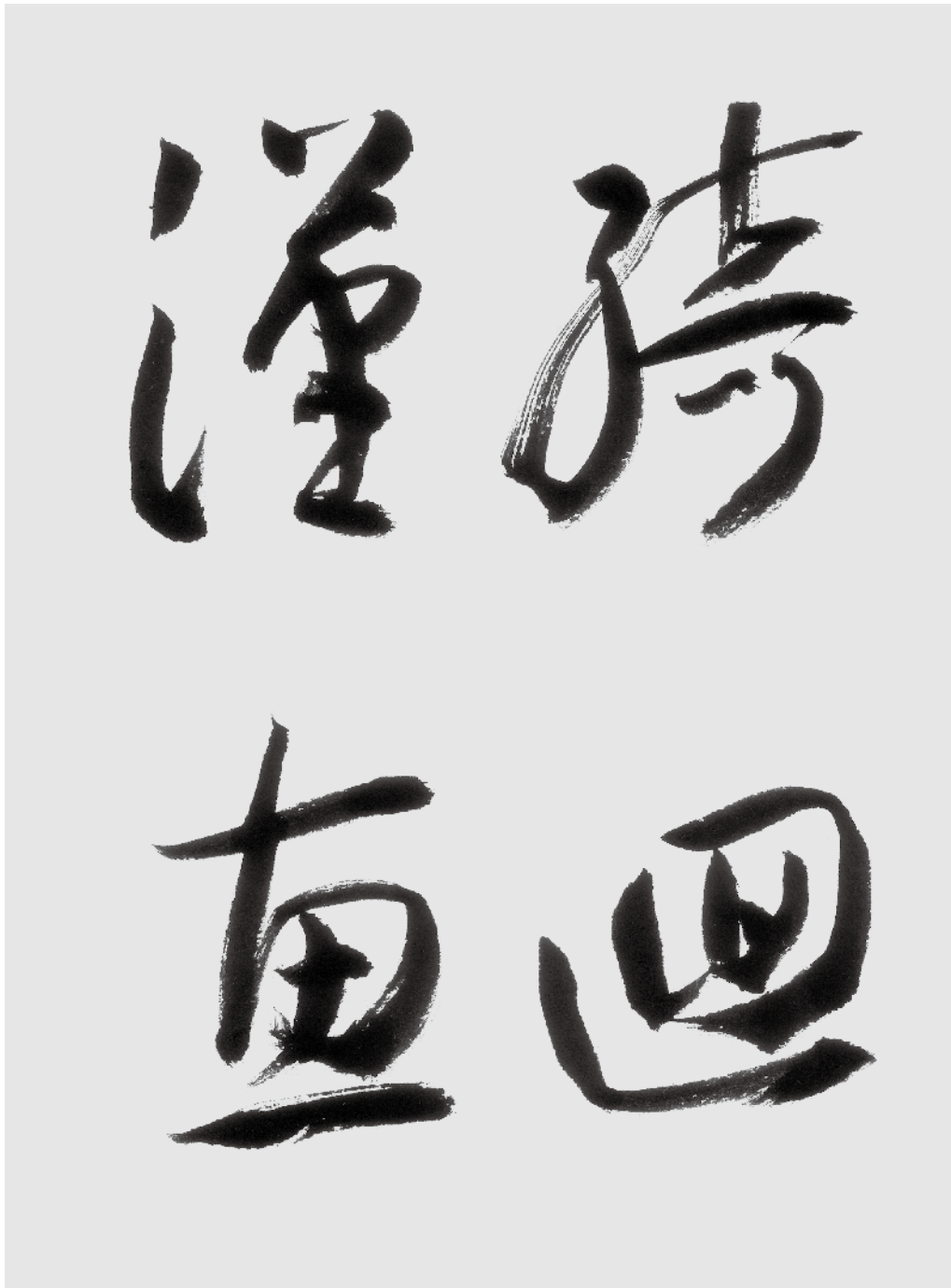
お正月・元旦写経案内

真草千字文（關中本）

（濟弱）セイジヤク 扶傾フケイ 綺廻漢惠キカイカンケイ 說感武丁エツカンブテイ 俊父密勿シュンガイミツブツ 多士寔寧タシシヨクネイ 晋楚シンソ（更霸）（ヨリハ）

扶傾綺廻漢惠說感武丁
 於似騎四漢南以威主丁
 俊父密勿多士寔寧晉楚
 後人密勿多士寔寧晉楚

（弱きを濟い）（よわきをすく） 傾けるを扶く。（かたむ） 綺は漢惠を廻し、（たす） 説は武丁を感じしめたり。俊父密勿して、（き） 綺は漢惠を廻し、（かんけい） 説は武丁を感じしめたり。俊父密勿して、（えつ） 説は武丁を感じしめたり。俊父密勿して、（かん） 説は武丁を感じしめたり。俊父密勿して、（ふてい） 説は武丁を感じしめたり。俊父密勿して、（しゅんがいみつぶつ） 俊父密勿して、（たしまこと） 多士寔に寧し、（やす） 多士寔に寧し、（しんそ） 晋楚（更も霸たり。）（こも） 晋楚（更も霸たり。）



『真草千字文』 18ページ参照

隋 智永 真草千字文 關中本
第三九句目

綺廻漢惠(綺ハ漢惠ヲ廻ラス)

〈語釈〉

綺ハ人ノ名即チ綺里季ナリ回ハ挽回ナリ漢ハ高祖天下ヲ有ツノ號ナリ惠ハ即チ孝惠皇帝ニシテ名ヲ盈ト曰フ呂后ノ生ム所ナリ盈嘗テ太子タルトキ高祖、庶子如意ヲ愛シ盈ヲ廢セント欲ス呂后之レヲ憂ヒ張良ノ策ヲ用ヒテ綺里季、唐宣明、崔黃、周術、ノ四人ヲ聘シテ盈ノ門客ト爲シ出入相從ハシム高祖之レヲ見テ羽翼既ニ成レリト爲シ盈ヲ廢スルノ念ヲ絶ツ盈是レニ依リテ廢セラレス遂ニ高祖ノ後ヲ承ケテ踐祚セシヲ謂フナリ綺等四人齡皆ナ八十餘ニシテ鬚髮皓白ナリ時人之レヲ商山ノ四皓ト稱セリ

〈大意〉

綺里季たち商山四皓は、排斥されようとした漢惠帝をもとの位に戻した。

※商山四皓…国難を避けて商山に匿れた四人の老高士。綺里季、東園公(唐宣明)、夏黄公(崔黃)、甬里先生(周術)のこと。

〈書き方〉

全体として草書は軽妙に書く。腋を開き、俯仰法、指法を考えて筆を運ぶ。

綺…糸偏に立と可として書こう。糸偏は詩句に多く見られるので、「子」の縦長の形として覚えておこう。

廻…回は筆写の体で回となる。延繞の草書形は、「回」を支えるように一画で書く。

漢…草書では三水に董の形で「漢」となり、言偏にすれば「謹」となる。偏が縦画一本の時は「漢」と「謹」のどちらかとする。惠…心が草書で横画一本に化ける。

【用具・用材】

筆 永昌五号 墨 顕微無間
紙 松雪

(習い方は24ページ)

漢字半紙（1級～5級）

『真草千字文 關中本』より「綺廻漢恵」の四字の臨書

石橋鯉城臨

綺廻漢恵

『真草千字文』 18ページ参照

隋 智永 真草千字文 關中本

第三九句目

綺キ廻カイ漢カン恵ケイ

〈習い方〉

○唐の楷書に近く、虞世南の筆法を念頭に置いて臨書している。

○虞世南の楷書では、長ちやうだい大画が少し長く書かれていて暢びやか。「綺」の第十一画目と最終画、「廻」の最終画を見よう。

綺…糸偏を細めにして、旁をやや広めに象る。

廻…回を大きく文字の中央に置き、「えんによう」を横広に伸び良く。

漢…「さんずい」を軽めに細く、旁を大らかに横画の間隔を平行に。

恵…概形は台形を考え、特に「心」字で安定を図る。恵の筆順と運筆の呼吸を工夫しよう。

【用具・用材】

筆Ⅱ特選永昌

墨Ⅱ顕微無間

紙Ⅱ松雪

（習い方は24ページ）

漢字半紙（6級～10級）

「鳴鳳在樹」の四字を書きなさい。「鳴鳳」または「在樹」の一字或いは二字を書いての提出も可。

石橋鯉城書

鳴鳳在樹

『真草千字文』 18ページ参照

千字文 第三十三句目

鳴鳳^{メイホウ}在樹^{サイジュ}

〈大意〉

鳳凰の「鳳」はオオトリで雄^{おす}。鳳は雌。転じて天子の意とあり、瑞祥の鳳凰鳥が樹上で鳴いて、天下がよく治まり平和になることを言う。

〈解説〉

今年こそは、平和なよき年になって欲しいものである。漢字半紙では書法の基本や言葉を学ぶ為に隋の智永の「千字文」を学んでいるが、同じ楷書でも今様の日本の書き方。

〈書き方〉

鳴…「口」の位置に留意。「鳥」の横画はリズムよく書いて等間隔に。

鳳…風構えを張りのある線でゆつたりと。そりをしっかり入れたい。

在…二画目と三画目は交差させる。

「存」も同じ。

樹…「木偏」「亼」「寸」の組合せ。相讓相避の原則で譲り合って書く。

【用具・用材】

筆 永昌五号

墨 顕微無間

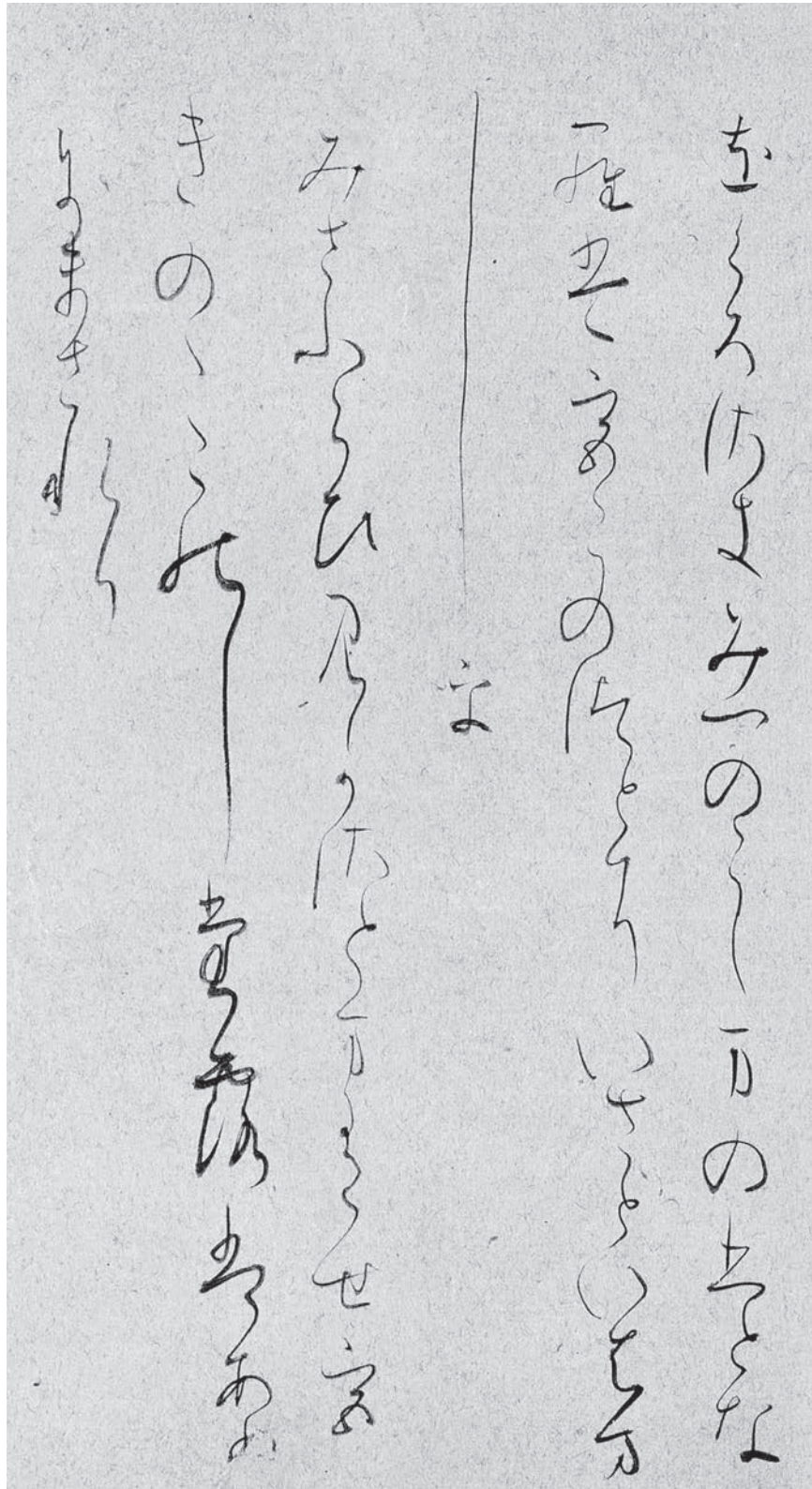
紙 松雪

（習い方は25ページ）

かな半紙 専門部(五段〜準初段)

左の『関戸本古今集』より「を久ろ佐支」から「尔末されり」までの六行を、半紙を縦に使用して臨書しなさい。

※原寸には拘らなくてよい。



(原寸)

を久ろ佐支みつのこし万の悲とな／羅盤宮この徒と耳いさとい者万／し乎
みさぶらひ見可佐と万有せ宮／きの、こ能し堂露盤あめ／尔末されり

〈読み〉

をぐる崎みつの小島の人なら
ば 都の苞にいざと言はま
しを

みさぶらひ御傘と申せ
宮城野の木の下露は雨にまさ
れり

〈大意〉

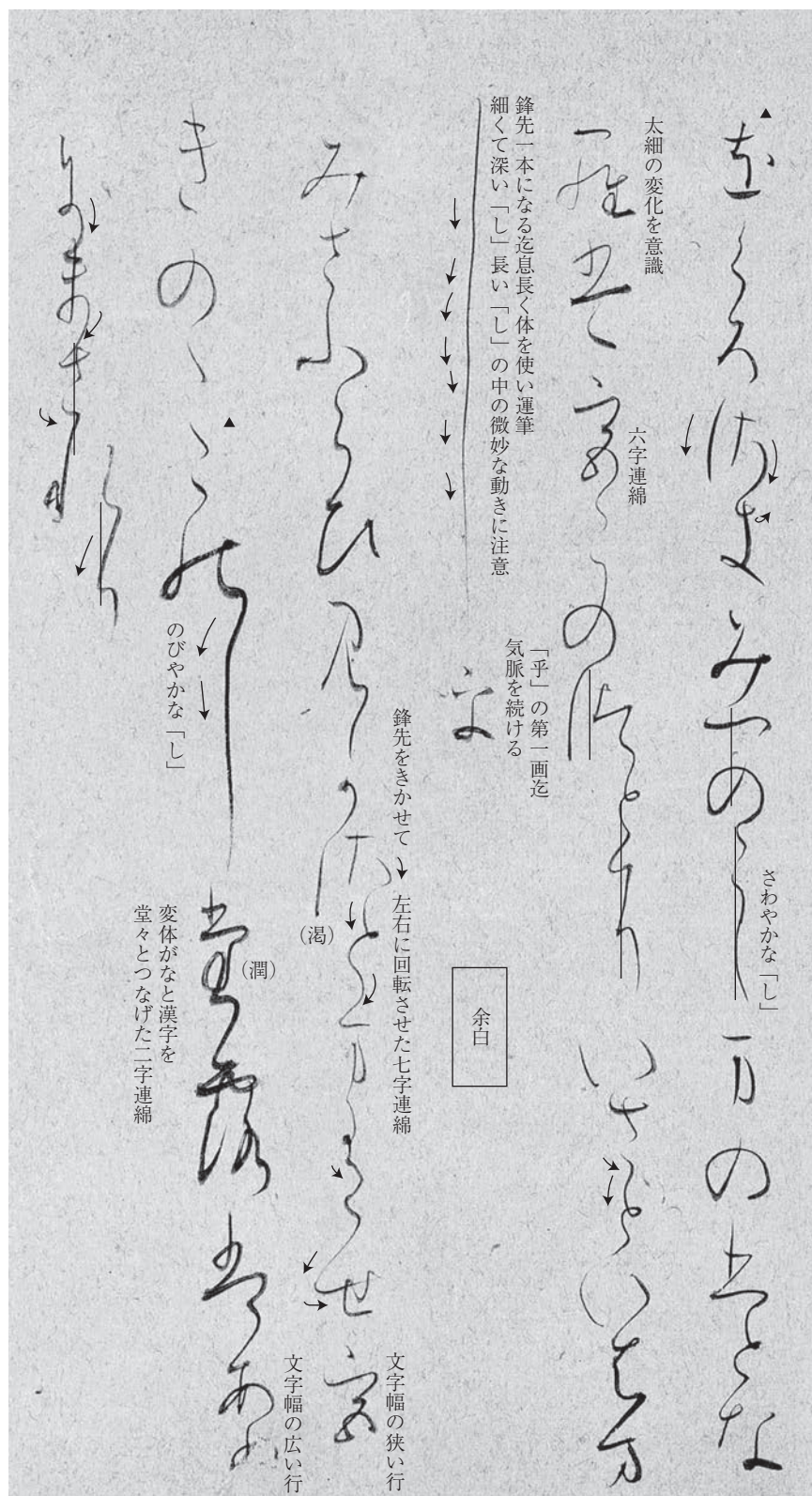
小黒崎のみつの小島がもし
人であったなら、都へのみや
げとして「さあ、一緒に行こ
う」と言つて、誘いたいほど
である。

お供の衆よ、殿様にお傘を
さしてあげましよう、申し
あげてください。何せ、宮城
野の木の下露といったら雨以
上なのです。

(古今和歌集 卷第二十)

東歌
1090・
1091

課題解説（かな半紙五段〜準初段）



【ポイント】

- ▲墨継ぎのめやす
（含墨量を加減してひきしまった線を書くことが大切）
- 行間・余白に注意
- 中心が右に移動した連綿線
- 三種類の「し」

〈解説〉

今月の臨書課題では、まず二首目の左下の太さと厚みのある連綿線に目がひきつけられます。そのたつぷりとした墨の線を軸に右方向へ視線が動き遠近感のある景色がひろがります。この時重苦しい紙面にならないのは、渴筆で軽やかな筆の上下動を駆使した隣りの行と一首目の長い「し」「乎」に続く余白効果でしよう。渴筆や余白が人目をひく線を浮かび上がらせています。又書かれた文字の姿ばかりでなく、筆者の呼吸やリズムを体得する事の重要性も同時に理解したいものです。

（八尋光華）

【用具・用材】

- 筆Ⅱかな用小筆
- 墨Ⅱかな用和墨
- 紙Ⅱかな用雁皮

かな半紙（1級〜5級）

左の図版の「田子能^のうらゆ^い」から「雪^は八ふりける」までを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。

安東聖空「梅雪かな帖（下）」より

田子能^のうらゆ^いち出^いて、み／れ八^はましろ^にろそ富士能^の／多^た可^かね^にろ雪^は八ふりける
けふのふゆうち出^いて見れば真^し白^ろにそ富士の高嶺に雪は降りける
〈大意〉田子の浦を過ぎ、広い海にこぎ出でて眺めてみると、富士山の山頂に真つ白に雪が降っていることよ。

田子能^のうらゆ^いち出^いて、み／れ八^はましろ^にろそ富士能^の／多^た可^かね^にろ雪^は八ふりける

〈読み〉田子の浦ゆうち出^いて見れば真^し白^ろにそ富士の高嶺に雪は降りける

〈大意〉田子の浦を過ぎ、広い海にこぎ出でて眺めてみると、富士山の山頂に真つ白に雪が降っていることよ。

（万葉集 卷第三
318）

課題解説（かな半紙1級～5級）

〈解説〉

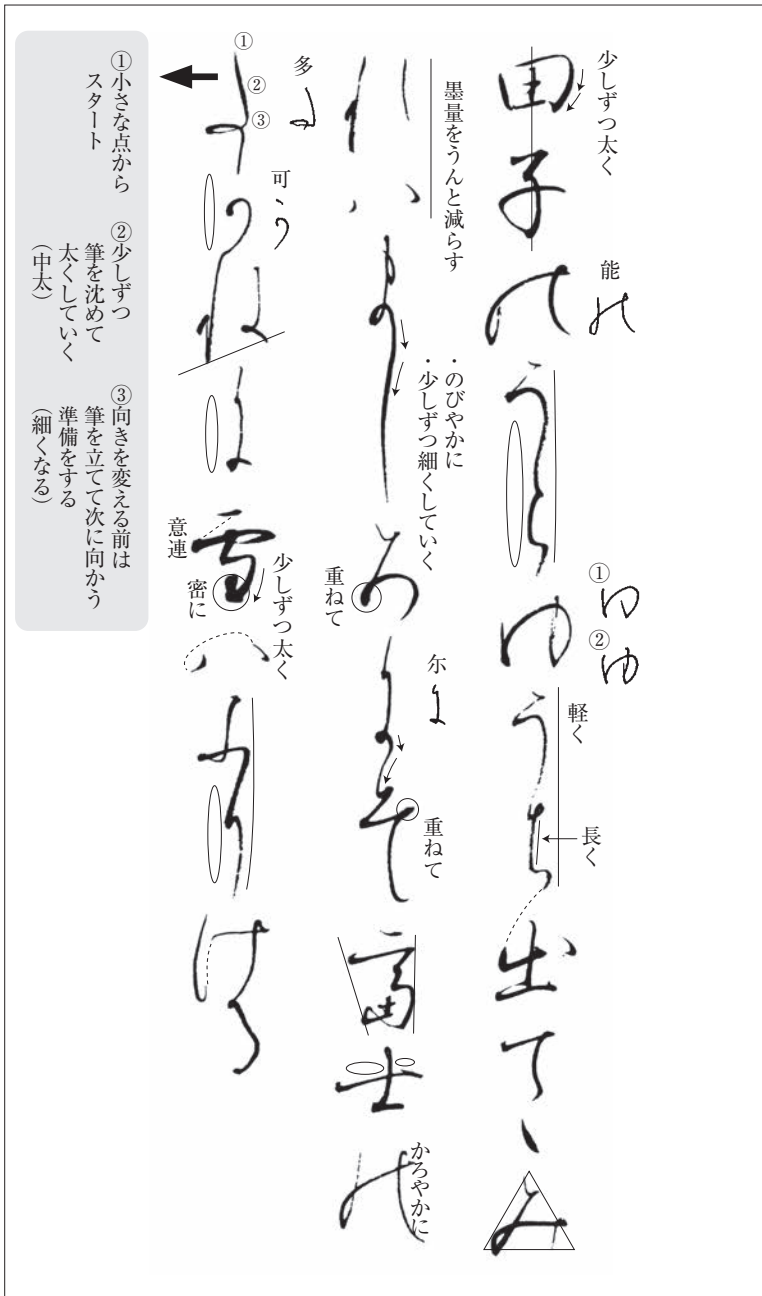
今月は和歌一首を書きます。

有名な和歌ですのでリズムよく書けるかと思います。

しかしながら筆が走りすぎますと平板な作品になってしまいます。線の太細に気を付けて書き、奥行きを出して下さい。

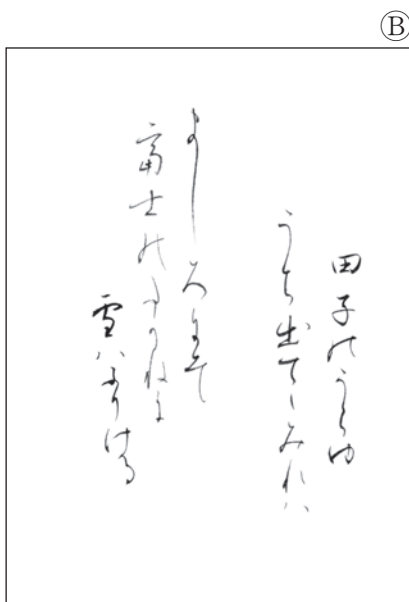
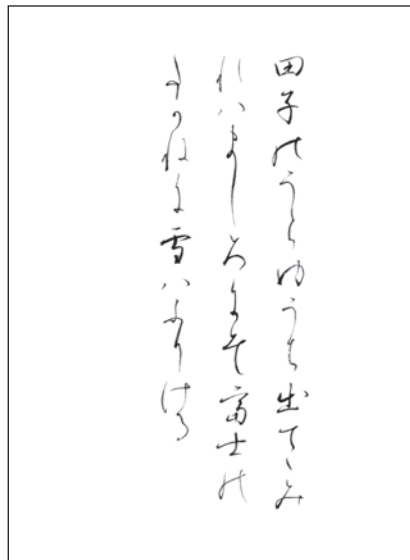
書く時の姿勢も大切です。背筋をまっすぐ伸ばして楽な気持ちで書いて下さい。背筋を伸ばせば目の位置が上になり、全体がよく見えますし、体の動きもよくなります。

（甲谷景子）



◎今月は参考作品のように①三行書き②散らしのどちらを提出しても構いません。（来月から散らし作品に取り組みますので、②はその練習も兼ねています）

〈参考作品〉



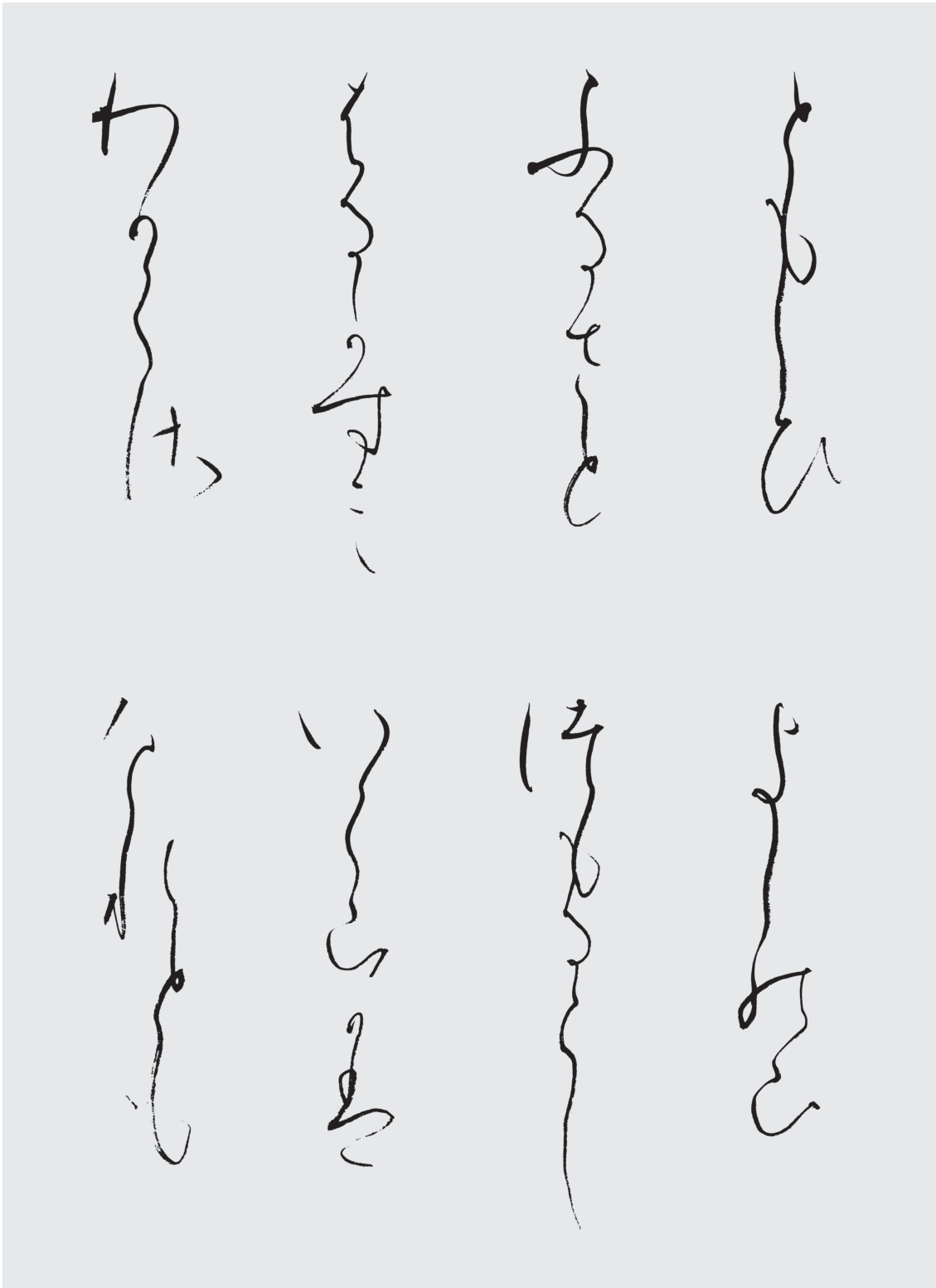
（甲谷景子臨）

【用具・用材】

筆Ⅱ かな用小筆
墨Ⅱ かな用和墨
紙Ⅱ かな用雁皮

かな半紙(6級〜10級)

左の図版の「ともしひ」から「介れとも」までを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



ともしひよし能山ふるさと徒もるらし
はるがすみいく山かはわかくさけれども
者る可す三

〈出典〉

石橋犀水・石橋鯉城・吉田水明共著
入門書道講座Ⅲかな編

〈読み〉

ともしび よしの山
ふるさと つもるらし
はるがすみ いく山かは
わかくさ けれども

〈解説〉

今月は、四・五字の連綿を書きます。文字数の違いはあっても、書き方は先月説明した通りです。線の太細の変化をよく見て下さい。

さて、筆は十分おろして使っているでしょうか。筆のおろし方が少ないと、含む墨も少ないため、書いている途中ですぐにかすれてしまいます。

また、かなの線が細いという理由で、鋒先をほんの少ししかおろさずに書く人がいますが、それでは線が痩せているだけで、中太の豊かなものにはなりません。

筆は、半分位までおろして含墨し、余分な墨を反古紙で拭って調節してから書き始めましょう。

(川島史子)

【用具・用材】

筆Ⅱかな細字用筆

墨Ⅱかな用和墨

紙Ⅱかな用半紙

(習い方は25ページ)

修業は師につかえ
よく至りて師を離れ
後また師に仕え
二遍仕え申候がよし

〈出典〉

「不白筆記」

〈作者〉

川上不白

（二七一六〜一八〇七）

○文言を音読して、字間を空ける箇所を考えてみましょう。

○「師」が三回使われています。くずし方や墨量、位置を工夫して縦の流れと行の響き合いに留意しましょう。

○三行と一行でまとめてみました。

四行目は、前三行を受けてのまとめとし、行間や行の長さにも留意しましょう。

【用具・用材】

筆Ⅱ八号 全部おろす

墨Ⅱ和墨

紙Ⅱ手漉半紙

（習い方は25ページ）

修業は師につかえ よく至りて師を離れ 後また師に仕え 二遍仕え申候がよし

石橋鯉城書

若枝や
つぎき榮ゆる
八重の梅

わかえだ
若枝や
つぎき
榮ゆる
やへ
八重の梅

〈作者〉永井荷風（一八七九〜一九五九）

〈大意〉

八重の梅が澁刺とした勢いで、
今を盛りに美しい花を咲かせて
いる。これも接ぎ木の若枝があ
ればこそだ。

〈解説〉

○漢字を多用した手本の書き易
さ、面白さと言った処を見出
して半紙に上手に収めまし
う。

○出来上ったら、壁などに貼り、
三行の行の構成や全体観、字
づくりなどの落着き具合を眺
めて提出されたい。

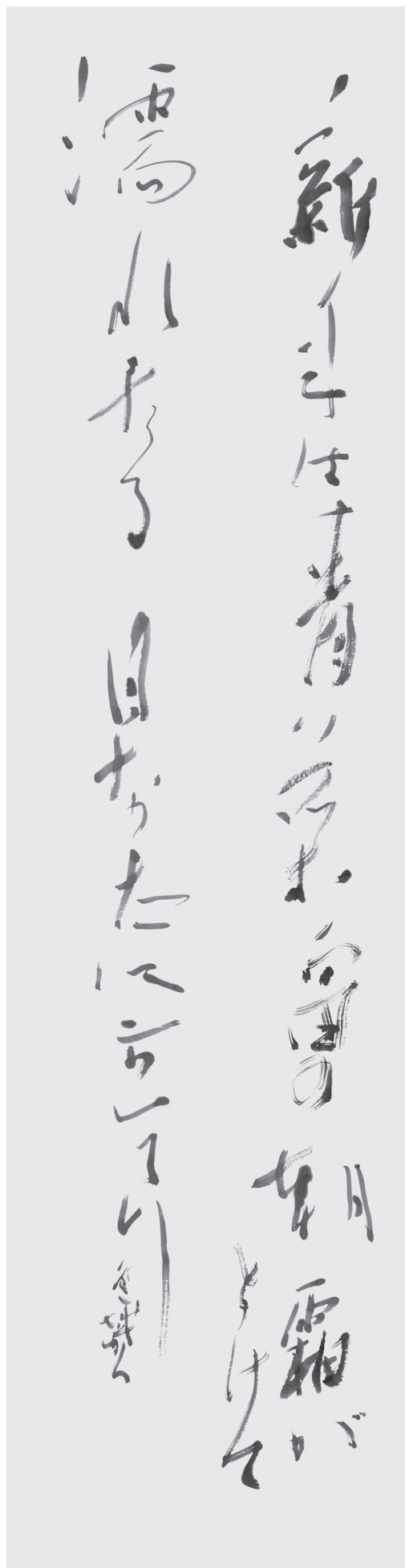
【用具・用材】

筆Ⅱ冬紫毫
墨Ⅱ善璉湖筆
紙Ⅱ天保九如

（習い方は25ページ）

新和様条幅 専門部(五段〜準初段) 参考手本 ※新和様条幅は新和様半紙の有段者対象。条幅初出品の場合は、準初段からの出品となります。

石橋鯉城書



新年は青菜島の朝霜がとけて濡れたる日なたに立てり

〈作者〉岡麓おかふもと(一八七七〜一九五一)

〈大意〉新年は改めて新鮮な気分になるものだ。青菜の島に朝霜が降りて濡れている。その日向に自分が立っている。

く

※「く」を二本にすると「手」になります

の朝

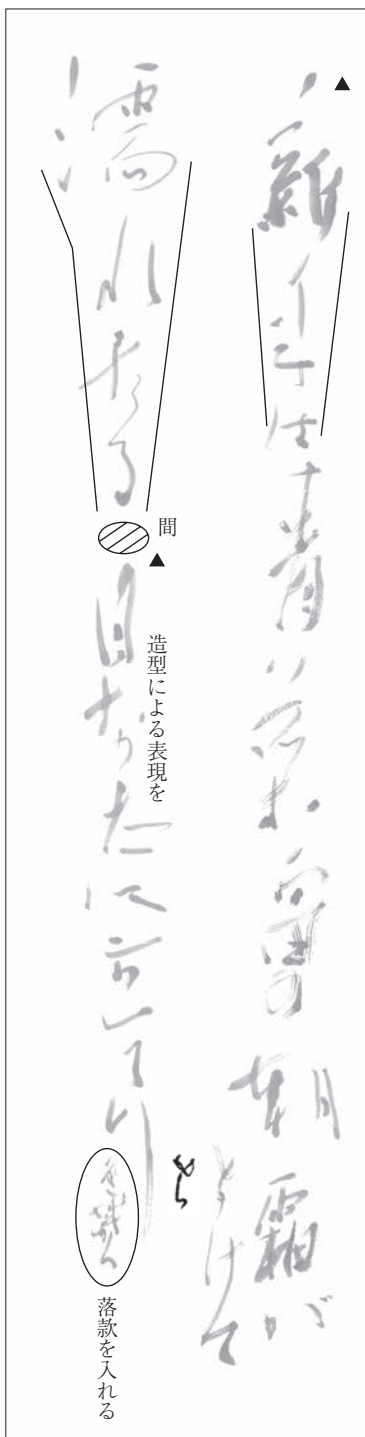
七と十のごとく

〈解説〉

○行間を広くとり、縦流れを強調しています。一行目では「朝霜がとけて」で上部を支え、左の行とのカラミをつけておきます。

【用具・用材】

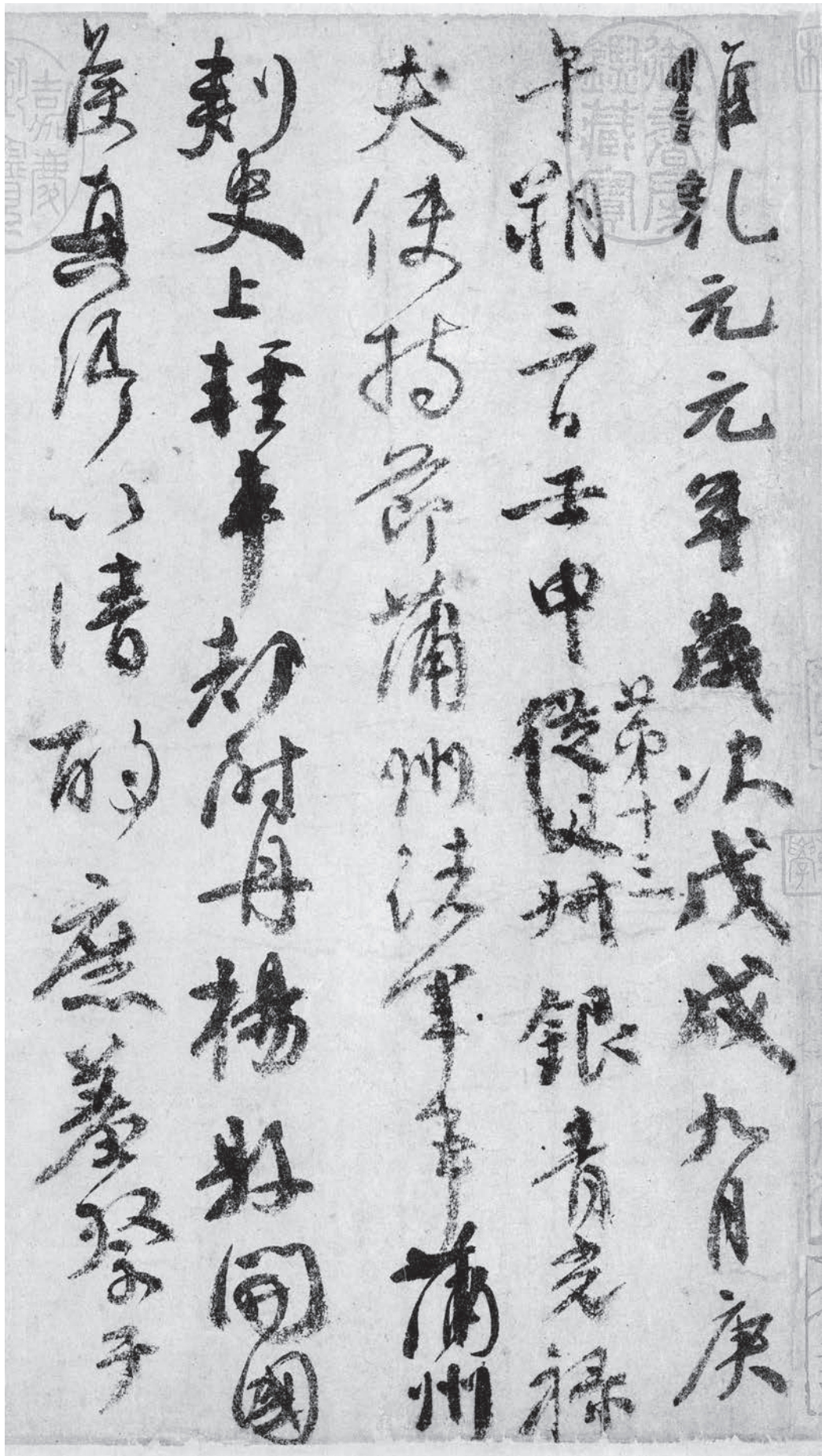
筆Ⅱ山猫毛筆
墨Ⅱ顕微無間
紙Ⅱ四尺單宣(半折)



(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm×よこ35 cm)

祭姪文稿

維乾元元年、歲次戊戌、九月庚午朔、三日壬申。從父第十三叔銀青光祿（大）夫使持節蒲州諸軍事、蒲州刺史、上輕車都尉、丹
楊縣開國侯眞卿。以清酌庶羞祭于（亡姪贈贊善大夫季明之靈口）

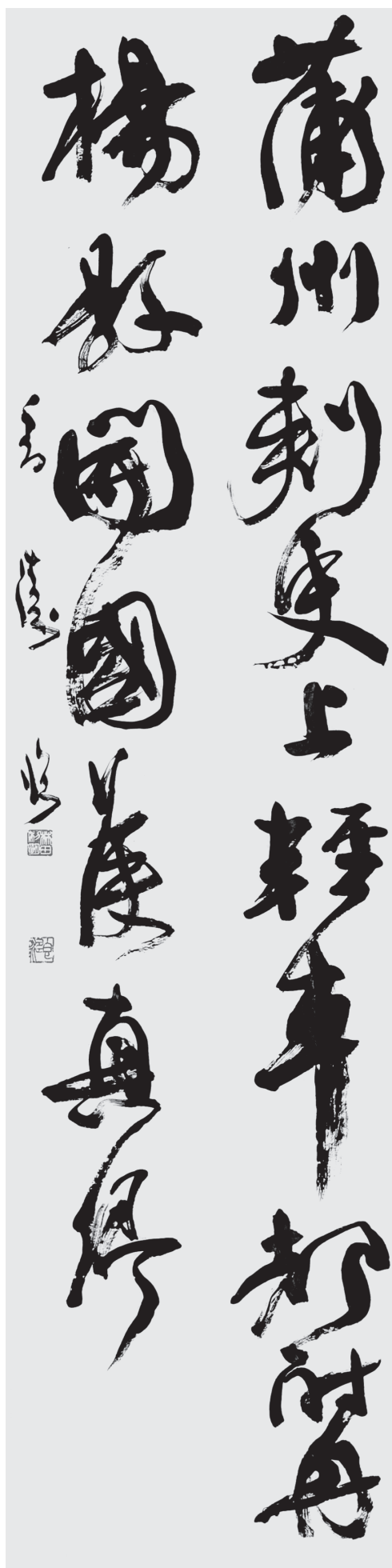


維乾元元年歲次戊戌、九月庚午朔三日壬申、第十三叔・銀青光祿大夫・使持節蒲州諸軍事・蒲州〔刺史〕・上輕車都尉・丹楊縣開
國侯眞卿、清酌庶羞を以て、（亡姪・贈贊善大夫季明の靈を）祭る。

漢字条幅 専門部 (五段、準初段)

祭姪文稿より「蒲州」から「真卿」までを臨書しなさい。

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)



(解説は26ページ)

蒲州刺史上輕軍都尉丹楊縣開國侯真卿

〈時代〉唐 (七五八年)

〈大意〉蒲州諸軍事、蒲州刺史、上輕軍都尉、丹楊縣開國侯の真卿が、(酒食をお供えし、ここに亡き姪で、賛善大夫の官職を追贈された顔李明の靈魂をお祭りいたします。)

漢字条幅 (1級、10級) 参考手本

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)



(解説は26ページ)

雲閣薄邊功

〈読み〉雲閣邊功を薄うす 〈作者〉陳子昂 (六六一〜七〇二)

〈大意〉辺境で役割を果たしても評価されない

小久保嶺石書

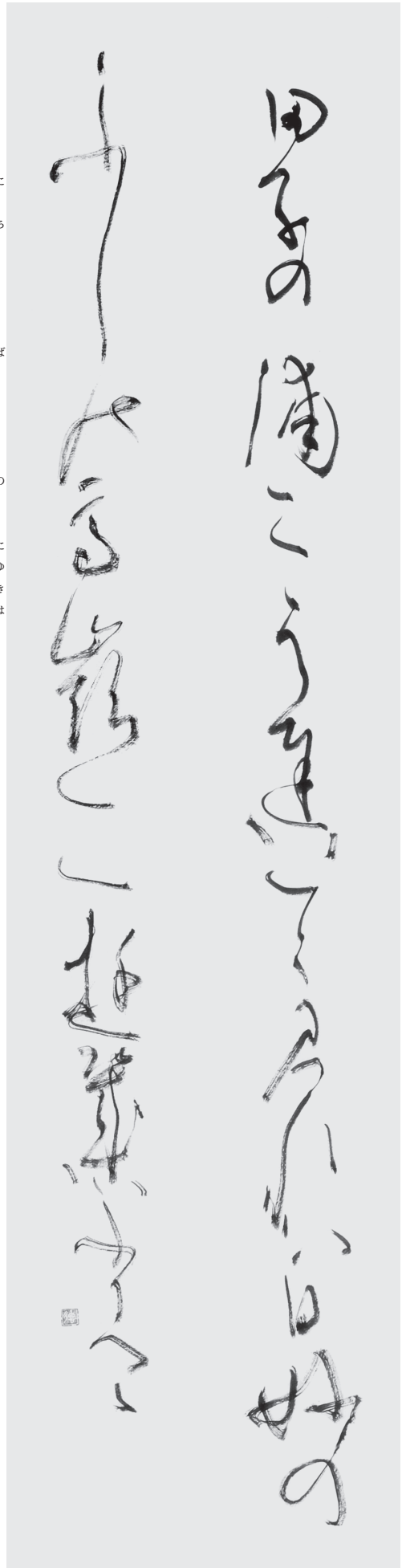
林田香濤臨

かな条幅 専門部（五段〜準初段）

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

（用紙 かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm）



（解説は26ページ）

田子の浦二う遅いて、見れ八白妙のふし能高嶺二遊幾八ふりつ、

〈読み〉 田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ 〈出典〉 新古今和歌集 卷六・冬 675 山部赤人 原歌万葉集（百人一首4）

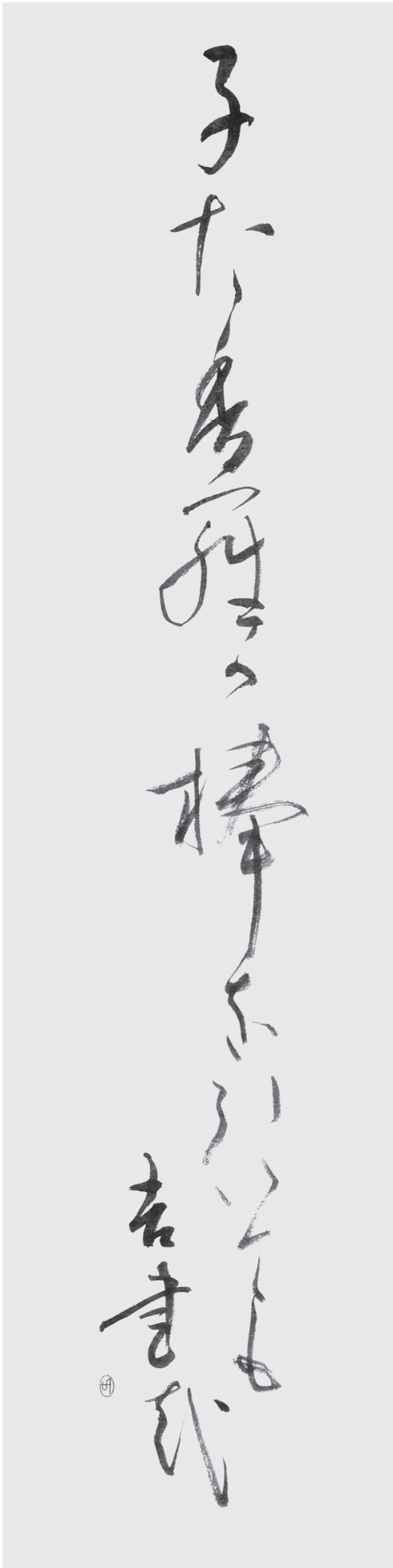
〈大意〉 田子の浦の見渡しのよい場所に出てはるかかなたを見渡すと、まっ白い富士の高嶺に雪が降り積もっていることだ。

かな条幅（1級〜10級）

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

（用紙 かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm）



内堀信嶺書

子た香羅可棒遠引いても吉書哉

〈読み〉 子だからが棒を引いても吉書かな

〈出典〉 小林一茶（一七六三〜一八二八）

〈大意〉 目に入れても痛くないあどけない大事な宝である子が、おぼつかない格好で筆を執り、何ということのない棒のような線を書いても、それは見事な書初だ。

（解説は26ページ）

中村清徳書

実用書（随意課題）

梅雪手紙帖より（安東聖空）

の度ハ御め下さるや
心より御慶び申
上
日頃の深いお望
ミをおげなさい
たゆむ御足の
とけ

この度ハ御め下さるや 心より御慶び申上ります
日頃の深いお望ミをおげなさいましたこと
ゆえ御満足の御ことと存しあけます

○出品用紙は、下側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。洋紙に書くことをここでは原則とします。

- ・ 月別出品券（69 ページ）とバーコード出品券（段級欄に「実用」と記入）を左下に貼付してください。

参考の小筆
・ 白楽
・ 玉梓
・ 選毫圓健

切りとって提出してください（コピーも可）

教室名	
氏名	
月別出品券を貼る	

今月の競書課題

専門部 会友準六段

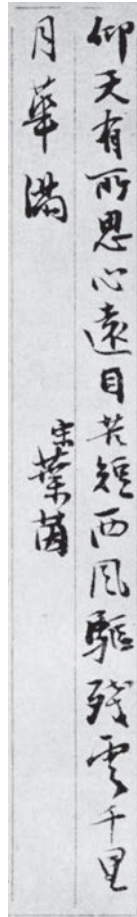
今月の出品期間 1月4日(火)～1月11日(火)必着

漢字半紙

〔出典〕『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋葉茵 有所思』
〔読み〕天を仰ぎて思ふ所有り
〔大意〕天をふり仰いで嘆くのはあの人を思うから。

仰天有所思

仰天有所思 心遠目苦短 西風驅殘雲
千里月華滿 宋葉茵



かな半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。
(変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

青柳の糸よりかくる春しもぞ 乱れて花のほころびにける

〔大意〕柳の枝がなびいているのは、まるで風が緑の片糸をより合わせているようである。そういう春だというのに、一方で花が乱れほころびるとは驚いたことだ。
〔作者〕不明 (古今和歌集 巻第一 春歌上26)

新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。
(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

元朝や馬に乗りたるこちしてわれは都の日本橋行く

〔大意〕元日の朝に馬に騎乗した心地で、われは都日本橋に行く。

〔作者〕与謝野晶子 (一八七八～一九四二)

〔出典〕与謝野晶子歌集「佐保姫」より (岩波文庫)

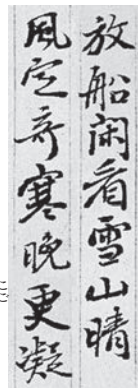
2月号課題予告				
漢字半紙	心遠目苦短	(鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋葉茵)		
かな半紙	春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくる	(古今和歌集41)		
新和様半紙	いただきの松の雪ふるあらし山春の初めに君と見るかな	(与謝野晶子)		
漢字条幅	櫛櫛無烟雪夜長 地爐煖酒暖如湯	(范成大 田園四時雜興)		
かな条幅	うぐひすの鳴けどもまだ降る雪に杉の葉白き逢坂の山	(新古今和歌集18)		
新和様条幅	不二ヶ嶺はいただき白く積む雪の雪炎たり真澄む後空	(北原白秋)		

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

漢字条幅

左の語句を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
(書体自由)

放船閑看雪山晴
風定奇寒晚更凝



〔読み〕船を放ちて閑看す雪山の晴るるを、風定まりて奇寒晩に更に凝る。
〔大意〕船を放ち、雪山が晴れるのを閑かに看ている。風は穏やかになったが、寒さも遅れて強まってきた。

〔出典〕『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 范成大 田園冬日雜興』

※課題予告が変更になっております

かな条幅

左の和歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
(変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春は来にけり

〔大意〕吉野は山も霞んで白雪が降ったので、里にもやっと春がやって来たよ。
〔出典〕新古今和歌集 巻第一 春歌上1

新和様条幅

左の短歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

雪しろくいとど晴れたれ御殿場の真上の不二は低く厚く見ゆ

〔大意〕雪白く一層晴れ渡っている御殿場、その真上の富士は低く厚手に見える。
〔作者〕北原白秋 (一八八五～一九四二) 〔出典〕北原白秋歌集 (岩波文庫)

※先月号予告に誤りがございました。(正) 雪しろく。(誤) 雪しろき。

自運Ⅱ与えられた課題語句を自運作品として用紙と筆を選び墨の磨り工合を工夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避けた。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。参考図書としては、現代字体字典(講談社)、五體字類(西東書房)、大字典(講談社)、古典かな字鑑(書藝文化新社)、広辞苑(岩波書店)、古語辞典(旺文社)などを見たい。

家～白の百八十六字を清書して出品。

家結跏趺坐忽然化生即為其父而說偈言
 大王今當知 我經行彼處 即時得一切 現諸身三昧
 勲行精進 捨所愛之身
 說是偈已而白父言日月淨明德佛今故
 現在我先供養佛已得解一切衆生語言
 陀羅尼復聞是法華經八百千萬億那由

(於淨德王)

家。結跏趺坐。忽然化生。即為其父。而說偈言

大王今當知 我經行彼處即時得一切 現諸身三昧

勲行大精進 捨所愛之身

說是偈已。而白父言。日月淨明德佛。今故

現在。我先供養佛已。得解一切衆生。語言

陀羅尼。復聞是法華經。八百千萬億那由

(淨德王の)

家において結跏趺坐し忽然に化生して、即ちその父のために、偈を説きて言わく

『大王よ、今、当に知るべし われ彼處に經行して即時に一切現諸身三昧を

得大精進を勤行して 愛する所の身を捨てしことを』と。

この偈を説き已りて、父に白して言わく『日月淨明德仏は今、故お

現に在せり。われ先に仏を供養し已りて、一切衆生の語言を

解する陀羅尼を得、またこの法華經の八百千萬億那由他・

家 結 跏 趺 坐 忽 然 化 生

(1-1)

(1-2)

(1-3)

(1-4)

(1-5)

(1-6)

(1-7)

(1-8)

(1-9)

他。甄迦羅頻婆羅。阿閼婆等偈。大王。我今當還。供養此佛。白已即坐。七寶之臺。上升虛空。高七多羅樹。往到佛所。頭面礼足。合十指爪。以偈讚佛
容顏甚奇妙 光明照十方 我適曾供養 今復還親近
爾時一切衆生喜見菩薩。說是偈已。而白(佛言。)

甄迦羅・頻婆羅・阿閼婆等の偈を聞けり。大王よ、われ、今、當に還ひこの仏を供養すべし」と白し已りて、即ち七宝の台に坐し、虚空に上昇ること高さ七多羅樹にして、仏の所に往到り頭面に足を礼し、十指の爪を合せて、偈をもつて仏を讃めたてまつる
『容顏甚だ奇妙にして 光明十方を照らしたもうわれ適曾、供養し 今、復還ひ親近したてまつる』と。その時、一切衆生喜見菩薩は、この偈を説き已りて、(仏に)白して(言す)

他甄迦羅頻婆羅阿閼婆等偈大王我今
當還供養此佛白已即坐七寶之臺上升
虛空高七多羅樹往到佛所頭面礼足合
十指爪以偈讚佛
容顏甚奇妙 光明照十方 我適曾供養 今復還親近
尔時一切衆生喜見菩薩說是偈已而白

12

11

10

9

8

7

言 偈 説 而 父 其 為 即
(1-17) (1-16) (1-15) (1-14) (1-13) (1-12) (1-11) (1-10)

○文字の書き方解説の用具はペンてる筆文字ペンを使用(極細)。

○長大劃を暢びやかに書いて氣格を大きく見せたい。

全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。
図版中文字で、判然としないところは、經典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。

清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

不二篆刻研究室

▼規定…左の語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

暢神

〈読み〉 ちょうしん…しんをのぶ
 〈大意〉 心を伸び伸びさせてやわらげる。
 神の^{しん}申^{しん}は稲光の象形で天のかみの表れ。ひいては「心、精神」をいう。

▼随意…好きな語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

○作品は「半紙横^{よこ}」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出。

○巻末の出品要項をよく読んでご出品ください。

一字書

▼規定…左に示す漢字を一筆書として墨継ぎすることなく「書」しなさい。(書体自由)

はつ【発】

〈読み〉「音」ハツ(漢) ホツ(呉)

「訓」たつ ひらく あばく

〈意味〉 はなつ。矢を放つ。鉄砲を撃つ。

あばく。明らかにする。あらわす。あ

らわれる。

〈おすめの用紙〉

萬象 50枚(夾宣)

作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を

鉛筆で記入のこと。

▼随意…左に示す平がなに運筆の呼吸を吹き込んで生命ある字に仕立てなさい。(書体自由)

仮名の成り立ち「安」を考えて創作すること。

〈おすめの用具・用材〉

一字書 100枚(夾宣)

特選二字書 100枚(夾宣)

作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で記入のこと。

○バーコードは、段級欄に「二字書規定○段(級)または「二字書随意」と

書いて貼付してください。(規定の方は段級を忘れずに)

○落款は印のみか一字に雅印ぐらいで。

○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

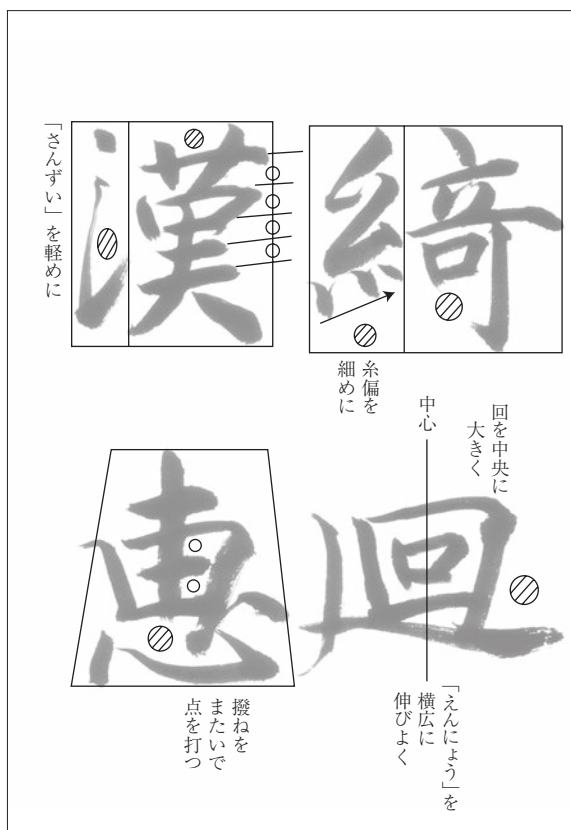
今月の出品期間

1月4日(火)～1月11日(火)必着

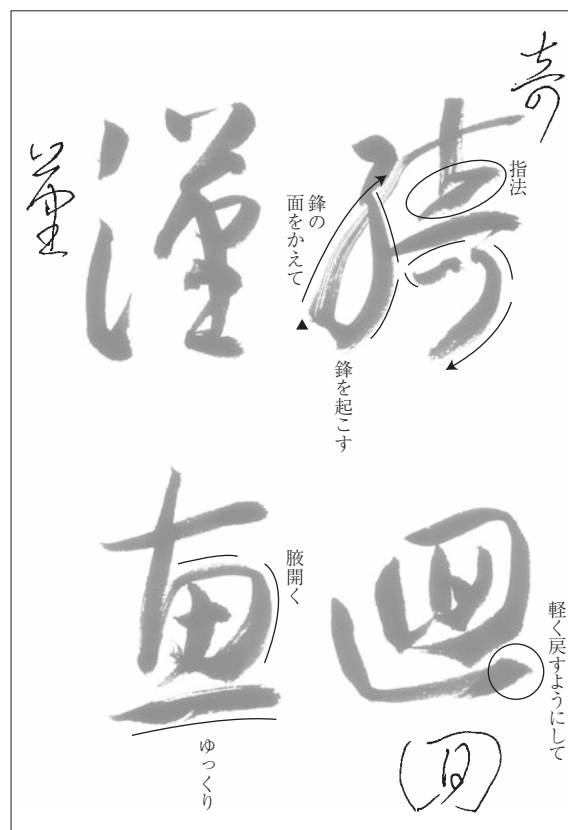
課題解説

漢字半紙 1級～5級(真草千字文)

漢字半紙 五段～準初段(真草千字文)



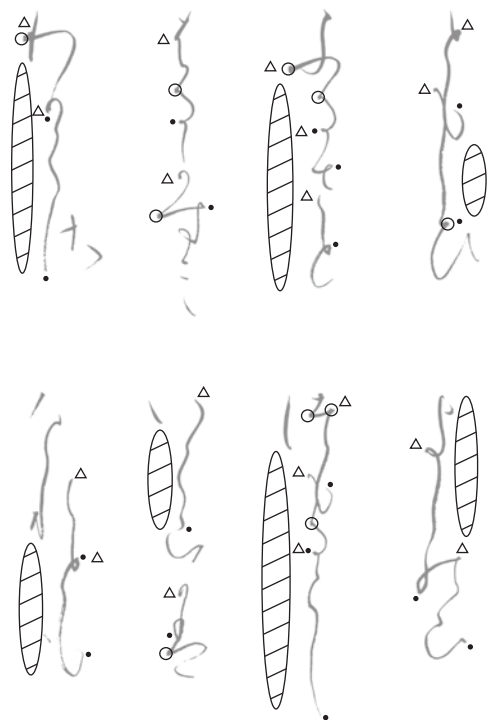
(石橋鯉城)



(石橋鯉城)

かな半紙 6級～10 級

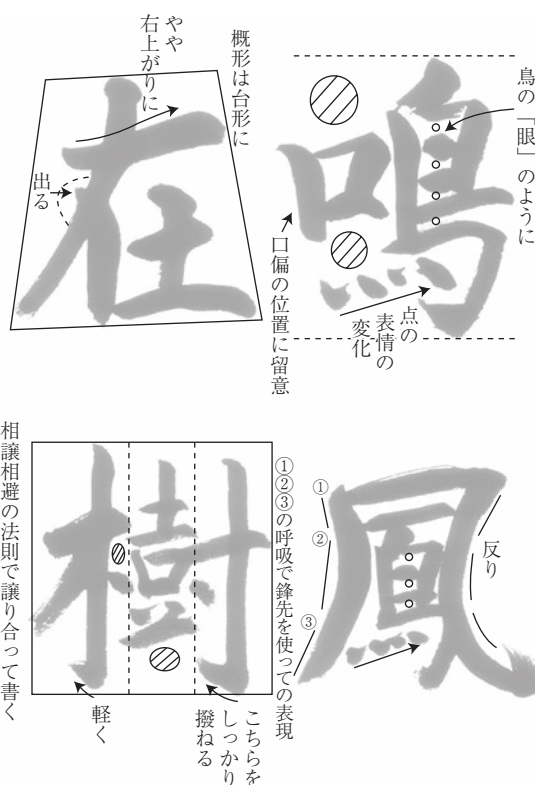
△から・まで、線を切らずに続けて書く。
○は、筆をしっかりと当てて面を返す。



(川島史子解説)

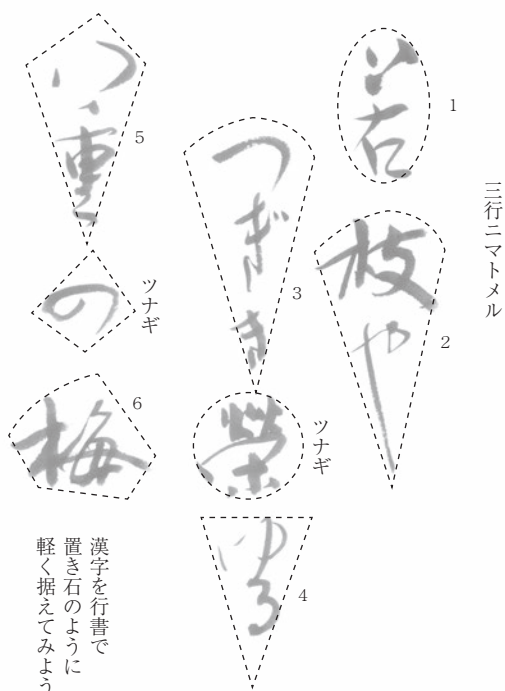
起筆は鋒先を上にしてすつと入る。
線は中太を意識する。

漢字半紙 6級～10 級



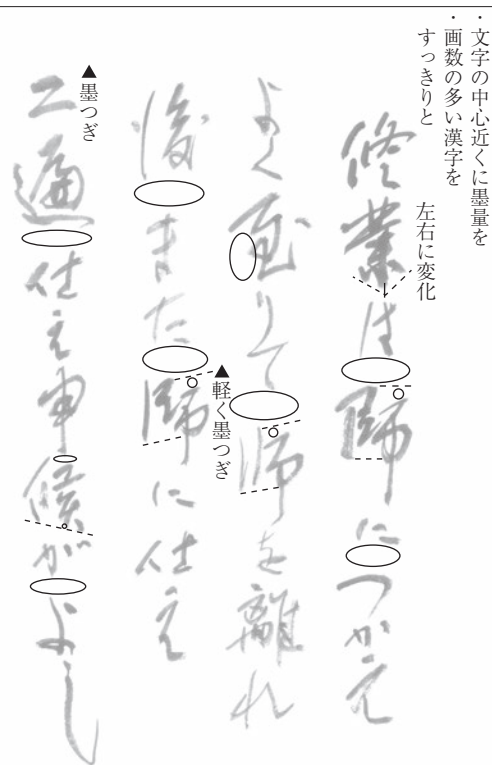
(石橋鯉城)

新和様半紙 1 級～10 級



(石橋鯉城)

新和様半紙 五段～準初段



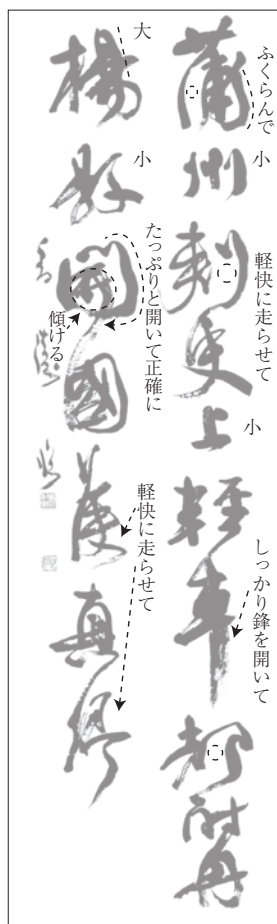
(永井香樹)

漢字条幅 五段く準初段

(林田香濤)

「祭姪文稿」(七五八年)は顔真卿の代表的な書で、三稿の一つに挙げられている。率意の書のもつ変化に富んだ用筆や造形をとらえていくことが狙いである。

○ゆったりとした呼吸で、抑揚(太細)の変化を加えていこう。



○向勢で文字の懐が広い字形を心掛けよう。
○運腕を大きく伸びやかに表現しよう。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆・羊毫筆 墨Ⅱ和墨・油煙墨
紙Ⅱ中国画仙紙

漢字条幅 1級く10級

(小久保嶺石)

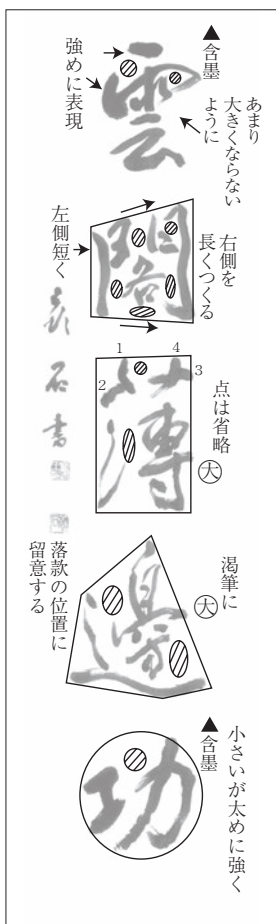
○五文字作品としての体裁を考え、構成の上で文字の字形・墨色・バランスなどに留意する。

○東晋王羲之や黄庭堅、犀水千字文などを参考にする。

雲：含墨して雨冠を強く表現するが、最初の文字はあまり大きくしない。

閣：門構えは放射状にして右側を伸びやかに。

薄：三文字目を大らかにつくる。三水は鋒先で軽やかに。「専」は重厚にどっし



りと。点は省略した。
邊：四文字目もゆったりと表現する。之繞の最終画は唯一長い横画なので、渴筆で軽やかに。

功：小さいがために強く収める。
○落款の位置と落款印に留意しながら、作品としてバランスを考えて仕上げたい。

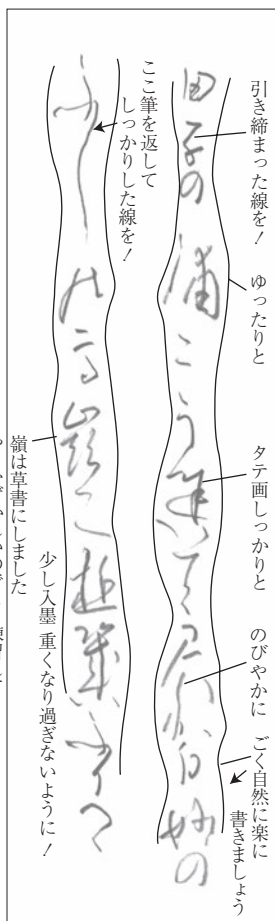
〈用具・用材〉

筆Ⅱ和筆・羊毫長鋒 墨Ⅱ和墨・油煙墨
紙Ⅱ中国画仙紙

かな条幅 五段く準初段

(中村清徳)

「田子の浦」どなたもよくご存知の和歌ですね。気持よくのび／＼と筆を持ちましょう。漢字はやさしい行書・草書・むずかしい変体がなは使用せず大らかに書き上げましょう。二行目上部の「ふし」の「し」のタテ画は大切な線です。のびやかに思いきって引きましょう、墨量過



多にならぬよう、結句の「遊幾」は入墨しますが多過ぎに注意！

〈用具・用材〉

筆Ⅱかな条幅用筆 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱ和画箋

かな条幅 1級く10級

(内堀信嶺)

○「香・棒」の点画は密になっているので、「羅」の字では空間を広くとり、明るく、ゆつたりとつてみた。

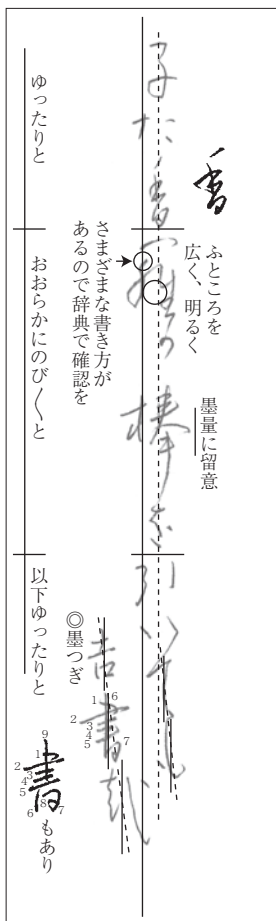
○「棒」は、行の中心部に位置するので、墨量を控えめにし、重くしないようにした。

○「吉書哉」は、横画(七画)が多いが、長い画を重ねて書かないようにした。

《吉書哉》→吉書哉

〈用具・用材〉

筆Ⅱ融毛 真秀 夏 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱかな用画仙紙



全日本学生書道展と同時開催

書家の登龍門 厳正公平な作品本位の審査

第71回 書道學會展

第一会場 令和4年1月4日(火)～10日(月)

東京都美術館 2階第3・4展示室(東京都台東区上野8-36)
午前9時30分～午後5時30分まで(入場は午後5時まで) 最終日は午後2時まで(入場は午後1時30分まで)

第二会場 令和4年1月4日(火)～10日(月)

東京芸術劇場 ギャラリー1(5階)(東京都豊島区西池袋1-8-1)
午前10時～午後7時まで(入場は午後6時30分まで) 初日は午後4時から、最終日は午後5時まで

■部 門 創作(漢字・かな・新和様)・臨書(漢字・かな)・
漢字造型(一字書・少字数書)・写経・篆刻

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会 【後援】文化庁・中国大使館・東京都・読売新聞社

※授賞式は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特別賞受賞者のみで執り行います。

作品募集 出品期間：令和4年1月17日[月]～21日[金] 必着

公募 第35回 不二現代書展 漢字かな交じり書・
漢字造型の新しい展開

会 期 令和4年3月16日[水]～21日[月] 会 場 大阪市立美術館 地下展示会室
(大阪市天王寺区茶臼山町 1-82)

時 間 午前9時30分～午後5時 出品料 13,000円(税込)
(入館は午後4時30分まで) ※ただし部門を跨いで出品の場合は2点目以降1点につき7,000円とする。

褒 賞 文部科学大臣賞・大阪府知事賞・大阪市長賞・大阪教育委員会委員長賞 他

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会 【後援】文化庁・大阪府・大阪市・大阪教育委員会

～日本の伝統文化「書初」にご家族・団体でご出品を！～

令和4年 書初不二誌上展 作品募集

出品期間：令和4年1月12日(水)～1月18日(火) 必着

表 彰

特選に選ばれた作品は
不二・ぺんの力各誌三月号に写真版として掲載されます。

特選・金賞・銀賞・銅賞

特選・金賞には賞状及び賞品を、銀賞・銅賞には賞状を贈呈します。

*出品要項は本誌 57～60 ページをご覧ください。

＜送り先＞
問合せ先

〒101-8358 東京都千代田区西神田2-2-3
公益財団法人日本書道教育学会 展示会係

電話 03(3234)3956
FAX 03(3234)3548

段 級	会員番号
漢字半紙	
かな半紙	
新和様半紙	
漢字余幅	不二教室
かな余幅	氏 名
新和様余幅	
細 字	
篆 刻	
一 字 書	